

エコアクション21 環境経営レポート

株式会社ミヨシ

[適用期間] 2021年4月1日～2022年3月31日



発行 2022年6月27日

作成 村越 真織

1. 組織概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
4. 環境活動実施体制
5. 環境経営目標
6. 環境経営計画
7. 環境経営目標の達成状況
8. 環境経営計画の実施状況及びその評価結果
9. 来期の環境経営目標・環境経営計画
10. 環境関連法規等の順守状況の確認
及び評価の結果ならびに違反訴訟等の有無
11. 代表者による全体の評価と見直しの結果

弊社は創業以来お客様の多様な「発想をカタチに」にお応えすべく邁進してまいりました。リアルタイムで進歩する技術革新の中、知識と実績に裏打ちされた自社一貫体制による最先端の技術力で最大限の対応に取り組んでおります。

【社名】	株式会社ミヨシ
【代表者名】	代表取締役 杉山耕治
【所在地】	〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩5-19-14 Tel 03-3692-0662 Fax 03-3696-9557
【環境管理責任者】	村越真織 〈E-mail〉 maori_murakoshi@miyoshi-mf.co.jp 〈URL〉 https://www.miyoshi-mf.co.jp
【事業内容】	(1)プラスチック製品の試作 (2) 射出成形金型の製作 (3) 射出成形加工 (4) 小ロットプラスチック製品の製作・加工 (5) 治具、機械部品の製作 (6)その他
【事業規模】	従業員数 16名（うちパート5人） 売上高 175,868千円（2021年4月～2022年3月） 床面積 404.1㎡

2. 対象範囲

【エコアクション2.1対象範囲】適用は全社・全従業員とします。

ミヨシが目指す姿は社会から必要とされ続ける会社です。

100年後もミヨシはものづくりで人々の生活を豊かにし、社会の役に立つ会社であり続けたいと考えています。

100年後の社会がどのようなになっているかは想像できなくても、どのような社会であってほしいかは考えることができます。

私たちは、未来の人類と地球上の生物にとって、持続的に発展できる社会であってほしいと考えています。

持続的に発展できる社会のためにはものづくりの過程で生じるエネルギーの削減や、作られたものがすぐに捨てられない、ライフサイクルが長い価値の高いものを作る必要があると考えています。

私たちはものづくりの過程で生じる環境負荷を抑えて、かつ、技術力を高めて人の役に立つものづくりを行うことを目指し、環境経営の継続的改善に努めます。

1. 自社において環境負荷低減の目標を作成し実行、持続する。
2. 環境に関する法規を順守し地域社会とのより良い調和を目指して行動する。
3. 環境目標として以下の5項目を重要項目とする。
 - ① 電気、化石燃料を適切に使用し、エネルギーの無駄な使用を抑えCO2排出量の削減に努める。
 - ② 生産活動における廃棄物の分別を実施しリサイクルを励行する。
 - ③ 水資源を保つ為に一人一人が節水を心がける。
 - ④ 化学物質の適切な使用と管理を行う。
 - ⑤ 環境負荷低減に関する自社の商品やサービスの販売促進を実施する。
4. 環境経営方針は従業員に周知し一丸となって遂行する。

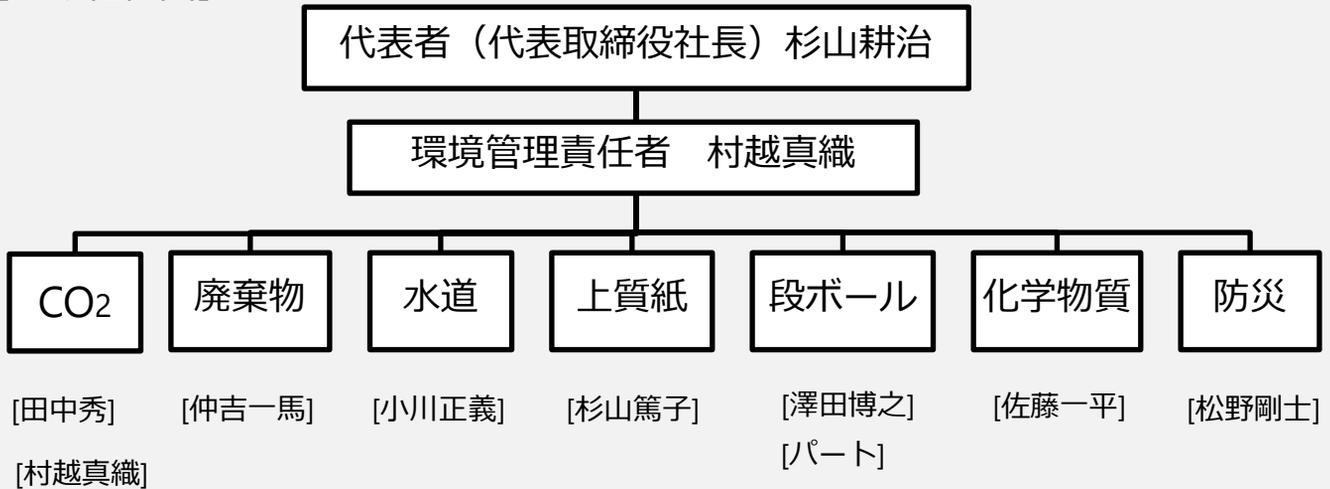
2006年11月制定

2018年 4月改定

株式会社ミヨシ

代表取締役 杉山耕治

【活動組織図】



	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・環境経営システムの実施及び管理に必要な設備・費用・人・情報を用意 ・環境管理責任者を任命 ・3ヶ月ごとのEA 2 1 活動報告会議にてコメント・評価・指示 ・代表者による全体の評価と見直しの実施 ・経営における課題とチャンスを整理し明確にする
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムを構築・運用する（代表者からEA 2 1 の権限を委任） ・実施体制の構築（組織図及び役割・責任・権限） ・環境目標・環境活動実施計画書と実績表の作成 ・教育・訓練の実施を指示 ・環境上の緊急事態への準備・対応 ・3ヶ月ごとのEA 2 1 活動報告会議の進行と記録 ・環境活動レポートの作成 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・EA 2 1 活動の推進 ・環境への負荷及び取組チェックを実施 ・環境関連法規等の取りまとめ表作成と遵守評価実施 ・環境関連文書・記録の管理
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・各々担当した環境項目について年間の活動内容の詳細を決める ・各担当ごとに必要な集計・グラフ化と全従業員への回覧 ・3ヶ月ごとのEA 2 1 活動報告会議にて活動状況の進捗を報告 ・年間の集計と次年度への引き継ぎ事項の報告

【今期の目標数値】 〈2021年度〉

項目	目標
CO2排出量の削減 ●電力使用量 ●灯油 ●ガソリン ※1	前年度(2020年度)実績値 より-2% ※2
廃棄物削減	前年度(2020年度)実績値 より-2%
ダンボール再利用率	発送件数に対して35%
水資源	前年度(2020年度)実績値 より-1%
化学物質	適切な使用及び管理
自社の商品・サービスの提案促進	環境負荷の削減のための弊社規格の交換ダイセットの提案促進

※1 ガソリンは営業活動に使用するため、目標数値の設定はせず、数値のみの管理とする

※2 当社の電気によるCO2排出係数は0.462(kg-CO₂/kWh)〔東京電力〕

【中長期目標】 〈2019年～2023年度まで〉

項目	基準値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
CO2排出量の削減	2018年度実績値	-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%
廃棄物削減	2018年度実績値	-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%
ダンボール再使用率	発送件数に対して	50%	50%	35%	35%	35%
水資源	2018年度実績値	-1%	前年度実績より-1%	前年度実績より-1%	前年度実績より-1%	前年度実績より-1%
化学物質	—	適切な使用及び管理				
自社の製品・サービスの提案促進	—	環境負荷低減のため、弊社規格の交換ダイセットの提案促進				

CO₂排出量の削減

【電気使用量】

活動内容	詳細
◆電気使用量調査	月ごとに使用量をグラフ化し資料を回覧する
◆エネマネシステムの活用	ピーク電力の管理を行い、コスト削減につなげる
◆エアコンのメンテナンス	夏前、年末にエアコンのフィルタ清掃を行う
◆エアリークチェック	6月に工場のエアーガンのエアリークチェックを行う
◆エアコン使用基準の順守	各場所の特徴に合わせたエアコンの使用基準に沿った使用

【灯油】

活動内容	詳細
◆灯油使用量の削減	エアコンをメインで使用し、ストーブはスポット的に使用する
◆灯油購入量の削減	灯油をまとめて購入せず、必要分のみ購入する

【ガソリン】

活動内容	詳細
◆エコドライブの推進	エコドライブの呼びかけと資料の回覧
◆燃費の管理	可能な限り燃費の管理をする

廃棄物削減

【ごみの排出量】

活動内容	詳細
◆廃棄物量の集計	毎月の廃棄物量の集計と報告書の作成と回覧
	集計方法の見直しと改善
◆廃棄物削減の工夫	無駄の無い材料の発注を行う
	金型製作時の工夫により廃プラスチックの削減を目指す

【ダンボール】

活動内容	詳細
◆再使用率の調査	再利用したダンボールを大きさごとに集計する
◆エコシールの活用	再利用ダンボールにはエコシールを貼付する
◆再利用の呼びかけ	再利用の呼びかけを3ヶ月ごとに会議で行う
◆実施状況の確認	発送前にシールの貼り忘れがないかチェックする

廃棄物削減

【上質紙】

活動内容	詳細
◆上質紙の分別と集計	再利用率を上げるために分別をしっかりと行い、集計をする
◆再利用の工夫	最大限に紙を無駄にしないように工夫する
◆FAX印刷の削減	印刷前に各担当に確認し、必要なものだけ印刷をする
◆用紙サイズ変更の検討	上質紙の使用量を減らすために用紙サイズの見直しを行う

水資源

活動内容	詳細
◆節水の呼びかけ	継続して節水の呼びかけを行い、無駄な使用をなくす
◆水の使用量の調査	水道メーターの使用量チェックと請求明細の照合
◆成形機チラーの活用	水道使用量を減らすために成形機チラーを活用する

化学物質

活動内容	詳細
◆安全な管理	保管方法の確認を行い改善点があれば実施する
◆使用量の調査	薬品使用メモに使用の際は記入する

自社の商品・サービスの提案促進

活動内容	詳細
◆交換ダイセットの提案促進	材料の節約と保管スペースの縮小のため可能な限り提案する

防災

活動内容	詳細
◆工場のラインテープの確認	工場での安全な動線の確保のためラインテープの確認を行う
◆避難訓練の実施	地震発生時を想定した避難訓練を行う（10月予定）
◆社内の安全チェック	社内に危険箇所が無いかの確認と対策を行う

2021年度 環境経営目標の実績

項目	単位	基準値 (2020年度)	目標[%]	目標値	実績値	前年比[%]	目標比[%]
電力量	kWh	91,010.0	-2%	89,189.8	100197.0	110%	+12%
	CO2-kg	43,432.6		41,205.7	46291.0		
灯油	L	0.0	-	0.0	18.0	-	-
	CO2-kg	0.0		0.0	44.8		
CO2目標分(合計)	CO2-kg	43,432.6		41,205.7	46335.8	-	+12%
ガソリン	L	2,686.6	-	-	1971.1	73%	-
	CO2-kg	6,232.9		-	4573.0		
CO2排出(合計)	CO2-kg	49,665.6	-	-	50908.9	102%	-
一般廃棄物	kg	1,081.5	-2%	1,059.9	1133.0	105%	+6.8%
産業廃棄物	kg	3,731.3	-2%	3,656.7	5179.5	139%	+41%
廃棄物(合計)	kg	4,812.8		4,716.5	6312.5	131%	+33%
ダンボール (再利用)	件	〈発送件数〉 777件	35%	〈目標〉 271件	〈実績〉 185件	再利用率 24%	
水資源	m ³	231.5	-1%	229.2	215.5	93%	-6%
化学物質	適量の使用および適切な管理を行った						
自社の商品・サービスの提案推進	金型全受注数のうち 87% は 自社の製品(交換ダイセット)で対応した						

◆基準値・・・前年度(2020年度)の実績値

◆ガソリンについては、営業活動に使用するため目標数値の設定はなし

◆当社の電気によるCO₂排出係数は、**0.462(kg-CO₂/kWh)** [東京電力]

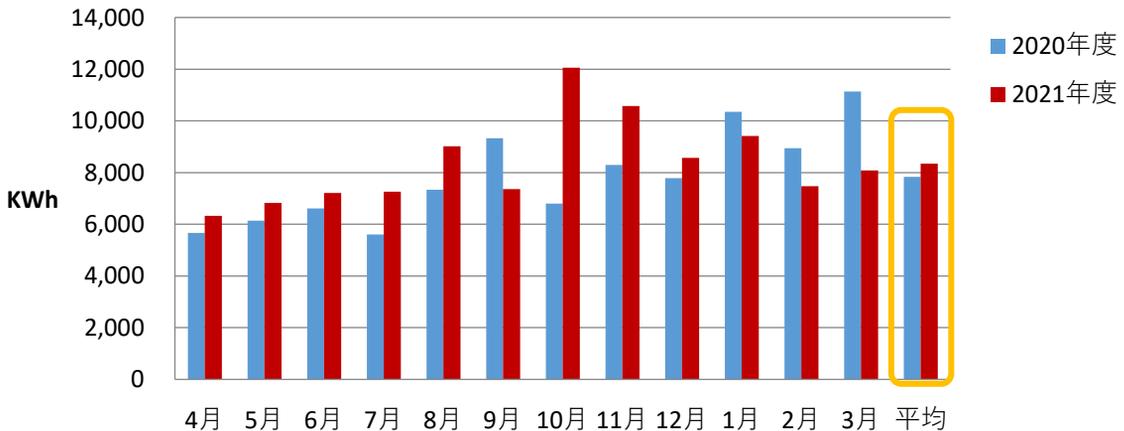
◆段ボールの発送件数には運送会社指定の段ボール分は含まず

CO2排出量の削減 ◆ 電気使用量

◆ 電気使用量の調査

今期も引き続き前年度との電気使用量の比較グラフの回覧を行った。(グラフ1)
 また、新型コロナウイルスの対策としてエアコン使用の際は換気を徹底して行ったため、使用時の効率
 が下がったと考えられる。
 使用量増加の原因には、機械の稼働率が高かったことの影響が大きいと思われるが、来期以降
 も無駄な電力の消費を抑えるように意識して行動したい。

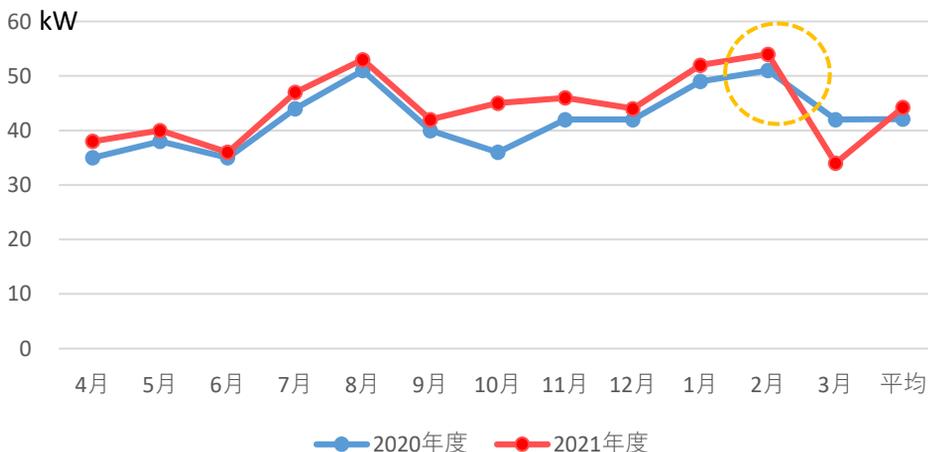
〈グラフ1〉 【電気使用量比較グラフ】



◆ エネマネシステムの活用

電力会社のエネマネシステムを利用し、ピーク電力の測定値の確認を行った。(グラフ2)
 機械の電源を入れる時間をずらすなどの対策はしていたが、今期は2月にピーク電力の数値が上
 がってしまった。話し合いの上、エアコンのタイマーセット時間を30分以上ずらすこととした。
 来期も機械・エアコンの稼働状況を事前に確認し、特に8月と2月は注意深く経過をみて対策を
 とる。

〈グラフ2〉 【ピーク電力比較グラフ】



CO2排出量の削減 ◆ 電気使用量

◆ エアコンのメンテナンス

夏のエアコン使用前と、年末の大掃除の際、社内のエアコンのフィルター清掃を行った。工場のフィルターは油汚れが多く、事務所や作業室はほこりで詰まりやすい。半期に一度のフィルター清掃を実施し、設備が効率良く機能するように継続していく。



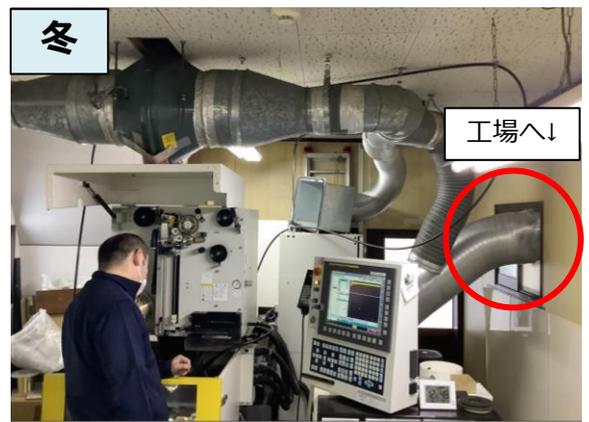
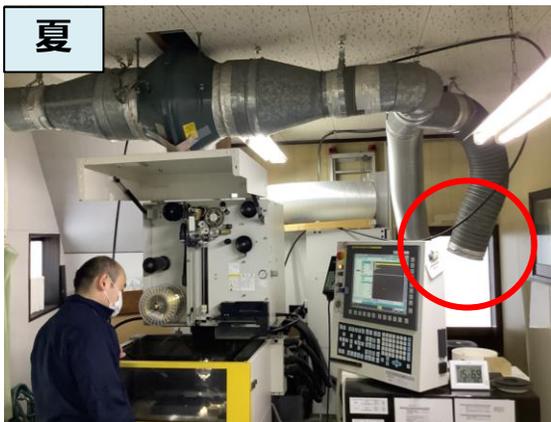
◆ エアーガンのエアリークチェック

過去不定期で行っていた工場のエアーガンのエアリークチェックは、毎年暑さのピークを迎える夏前に実施した。エアー漏れなどの無駄なエネルギーの使用を防ぐために今後も継続していく。



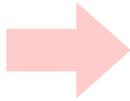
◆ 機械からの排熱の利用

冬季はワイヤー放電加工機からの排熱を工場へ送り込み、寒さ対策に利用している



◆エアコン使用基準に基づいた使用

社内の各場所ごとにエアコンの温度設定を確認し、使用基準をスイッチのところに掲示している。今期は冬に新型コロナの影響もあり徹底して換気を行っていたため基準を一時的に変更したが、継続して気候や状況に応じた対策をとる。来期は特に梅雨時期の湿度対策に重点を置き、場所ごとの調査を記録して基準の見直しを行う。



エアコン使用基準【事務所】

設定	つける基準	目標	基本設定温度	設定下限	風量	風向き
冷房	室温29℃以上、湿度55%以上	室温：28～29℃	28℃	27℃	自動	自動
除湿冷房	室温28℃以下、湿度65%以上 ※	湿度：50～60%	28℃	室温-2℃まで	自動	自動
暖房	寒いと感じるとき	室温：20℃	20℃		自動	自動

※または用紙がうねるなど仕事に支障が出る場合
 ・温度調節や入切は状況に応じて各自の判断で行うこと
 ・上記設定のほか、サーキュレーターで空気を循環させる

【タイマー設定登録内容】

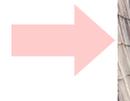
設定	設定No.	設定温度	ON	OFF	曜日	風量	風向き
暖房	シーズン1	20℃	6:00	21:00	月～金	自動	自動

※長期休みの前はスケジュールタイマーを無効にする

★足元の冷えにはストーブ！
★ウォームピスを忘れずに！

◆夏の日よけ対策

コンプレッサー室や、工場への夏の日差しを避けるため、すだれやビニールシートなどで対策を行っている。



CO2排出量の削減 ◆灯油使用量の削減

◆灯油購入量と使用量の削減

今期もエアコンの暖房をメインに使用し、灯油の購入量を最小限に抑えた。環境負荷低減を目指し、今後も必要な分を購入し、ストーブはスポット的に使用する。

CO2排出量の削減 ◆ガソリン

◆エコドライブの推進

弊社でのガソリンの使用は営業活動が中心なため、使用量についての目標は定めていない。エコドライブについては意識が薄れないよう、運転席に資料の掲示を行った。

◆燃費の管理

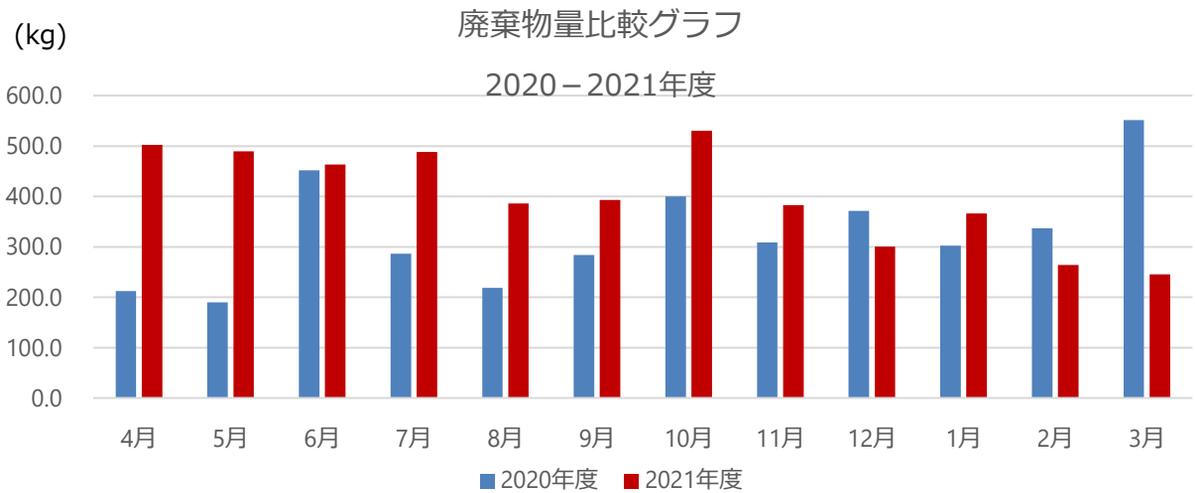
給油時の記録シートにて燃費の確認を行った。今期もコロナ禍の影響により、社内・WEBでの打合せが多く、営業車の使用頻度が減ったためガソリンの購入量も減少した。燃費の管理は給油記録シートにて管理を行った。

廃棄物削減 ◆廃棄物量の集計

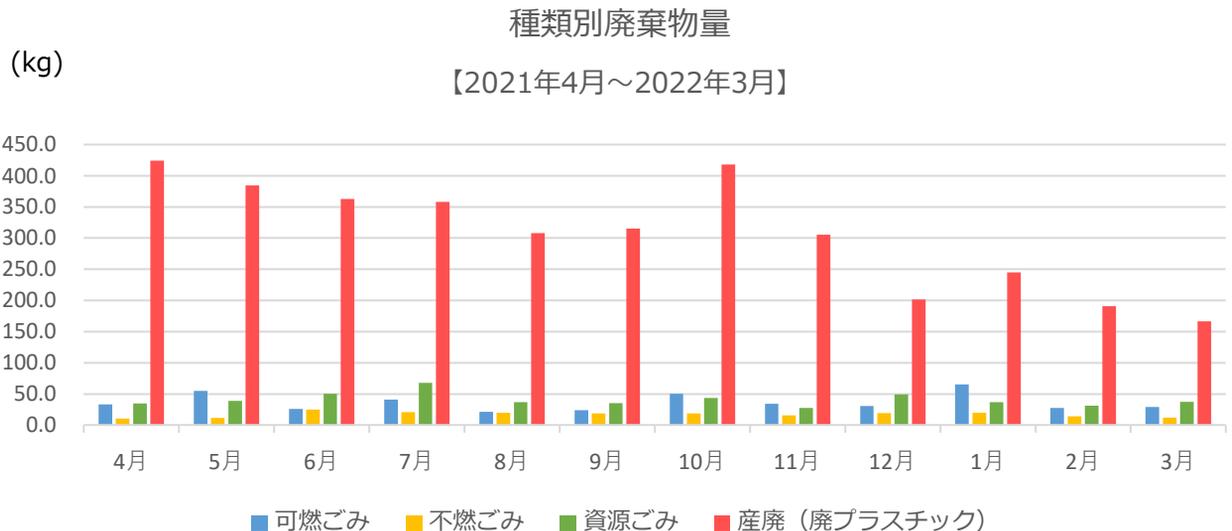
〔廃棄物の集計方法〕 ごみの収集日に、場所、種類ごとに自分たちで測定し、手書きの表に記入。月ごとに担当が集計しグラフ化する。(グラフ3・4)
 今期は担当による集計表の見直しにより入力時間が短縮され、以前よりも分かりやすい記録に改善された。

〔廃棄物量報告書〕 前期との廃棄量の比較や種類別のグラフを毎月回覧し、削減の意識を高めている。

〈グラフ3〉



〈グラフ4〉



廃棄物削減 ◆廃棄物削減の工夫

前期に引き続き今期も廃棄量が増加した。

種類別にみると、廃棄量のうち大部分は前頁の〈グラフ2〉の通り、成形作業による廃プラスチックである。

特に弊社は試作開発、研究に係る案件が多く、プラスチック材料の再利用が不可の場合もあるため廃棄量が増える傾向にある。

今期は、取引先からの支給材料を使用後に返却することをこまめに行い、廃棄量を少しでも減らせるよう取り組んだ。

また、環境に配慮した材料を使用した自社製品の販売も開始した。私たちの活動が環境負荷低減につながり、地球環境の保全に役立てるよう今後も活動を続けていきたい。

その他、廃棄量削減のために、材料購入時にも無駄が無い発注を心がけ、今後も金型製作時のスプールの径を小さくするなどの工夫を継続して行う。

廃棄物削減 ◆ダンボール

◆再利用マーク（エコマーク）の活用

継続して取り組んでいる発送ダンボールの再利用シール貼付について、今期より目標を35%とした。

量産品では梱包仕様が決まっているため再利用ができない場合も多いが、サンプル品の発送の際や加工依頼時などは、なるべく部品購入時のダンボールを再利用するよう呼びかけを行った。

また、再利用率向上のために保管場所を整理し、大ききごとに手に取りやすいよう工夫した。

取組を始めて3年目を迎え、今期は送られてくる品物に出荷時に貼付したエコシール付の段ボールを見かけることが増え、効果を実感できた。

取引先の協力にも感謝の気持ちを忘れずに今後も活動を続けていきたい。



【再利用シールを使うメリット】

- ①社内でのデザイン案から全員の投票で決めた親しみのあるマークで、楽しく取り組める。
- ②毎月末に各大ききごとのシールの残りの枚数を数えることで集計時間の大幅な削減ができる。
- ③あえて社名を入れず、発送先のお客様に更に再利用をしてもらいやすくすることで、エコ活動の拡散につながる。

廃棄物削減 ◆上質紙の削減

◆上質紙の再利用については、今期も徹底した裏紙の使用が出来た。
基本的な印刷を裏紙専用カセット設定している効果が高いと感じる。

◆上質紙の使用量を減らすため、A社内書類で変更が可能なものはA4サイズからA5サイズへと変更した。その結果、掲示場所の書類が整理しやすくなる効果があった。

◆FAX受信時はなるべく上質紙を使用しないよう、各担当に内容の確認をしてから必要な分のみ印刷し、不要なものや画面確認のみで対応できる場合は印刷をしない取組を行っている。
今期はA4用紙で258枚分を削減できた。(月平均約22枚)

◆複数コピーをした際は設定をクリアすることを呼びかけ、印刷ミスを無くすよう呼びかけをした。

水資源 ◆水道使用量の調査

今期も毎日朝と夜に水道メーターでの実測値の記録をとり、請求明細との照合を行った。漏水があった場合の早期発見につながるため今後も継続して行う。
また、水の出しっぱなしがあった場合は共有し呼びかけを行い、無駄な使用を減らすようにした。

2017年7月の成形機用チラー(空冷式冷水循環装置)の導入以後、水の使用量が減少し安定している。(グラフ4)

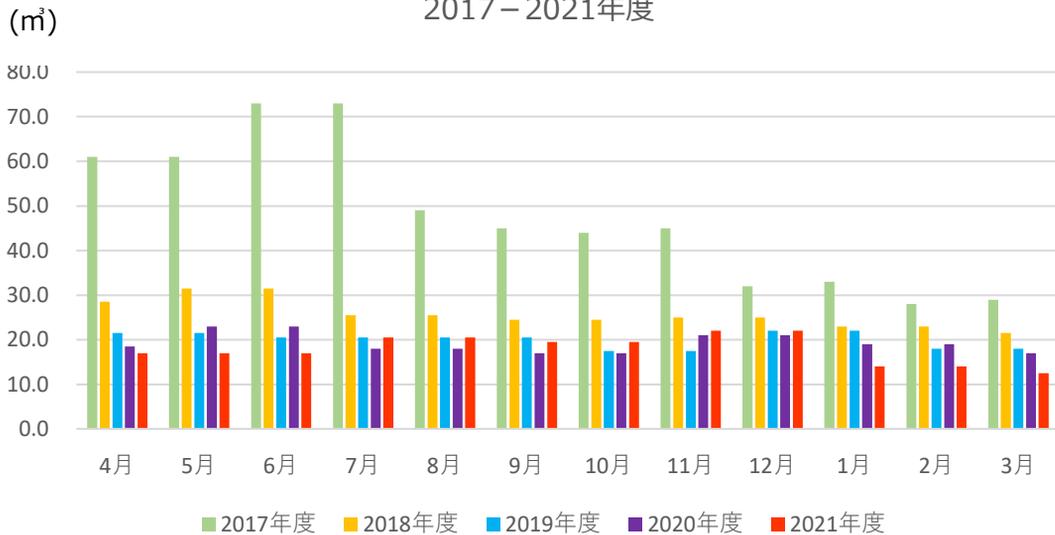
チラーは3台の射出成型機すべて金型を冷やす際に活用している。

また、成形機ホッパー下の温度の最適化を材料ごとに再設定し、生産工程の見直しをし作業の効率化をすすめた。今後も継続して活動を続ける。

〈グラフ4〉

水道使用量比較グラフ

2017 - 2021年度



化学物質

薬品棚の確認をし安全に管理を行っている。使用の際は薬品使用メモへの記入をする。
来期は化学物質管理表の見直しを行い、購入量の記録を行う。使用量は作業に負担がかからない効率的な方法を決めて管理する
※当社は洗浄剤と防錆剤で少量の薬品(PRTR対象外)を使用をしています。

自社の商品・サービスの提案推進

◆交換ダイセットについて

金型作成時、製品に関わる部分のみを交換し、共用出来る部分は共用する仕組み。
必要部分のみの製作となるので工期の短縮が図れ、材料も節約できる。
保管場所も少なくできるというメリットがあり、環境負荷低減にもなるため、可能な限り提案し推進している。今期の受注金型のうち**87%**は交換ダイセットで作製した。

その他の活動 ◆防災

◆工場のラインテープ

地震などの災害時の対策として、工場の通路の安全を確保するため、通路や、機械の稼動範囲にラインテープを貼り安全を確保している。また、通路以外でも機械が動いた際の危険箇所はテープで囲い、物を置かないように対策をしている。また、月毎に点検担当者がはがれた箇所が無いかのチェックを行っている。



◆避難訓練の実施

2月に地震発生時を想定した避難訓練を行った。各作業中に地震が発生した際の処置の確認と社内に危険な箇所が無いかを全員で確認した。

◆消火器の位置の再確認

社内の消火器の位置を周知し、期限切れが無いかの確認を行った。

来期は緊急時に備えてAEDの使い方と消火器訓練を予定している。



避難訓練時の点呼の様子



消火器の位置確認

その他の活動 ◆地域とのコミュニケーション

◆清掃活動

2014年度から引き続き毎週金曜の朝、社屋外周と周辺道路の清掃活動を行っている。綺麗な環境を保ち、地域住民の方との挨拶や会話など、積極的にコミュニケーションをとりながら今後も良い関係を築いていけるように活動を継続していく。



◆かつしかライブファクトリー

2019年から毎年秋に、葛飾区の製造業と協力し、ものづくり文化を知ってもらうためのイベントとしてオープンファクトリー、ワークショップを開催している。

弊社では今回、「お米から生まれたしゃもじ」を参加者の方に製造体験をしていただいた。古くなって使われなくなったお米を配合したバイオマスプラスチックでの製品づくりに好評をいただいた。また、環境に配慮した活動を地域の方々にも知っていただける良い機会となった。



企画会議の様子



工場案内風景



しゃもじ写真

【来期の目標数値】 〈2022年度〉

項目	目標
CO2排出量の削減 ●電力使用量 ●灯油 (●ガソリン※1)	2021年度実績値 より-2% ※2
廃棄物削減	2021年度実績値 より-2%
ダンボール再利用率	発送件数に対して35%
水資源	2021年度実績値 より-1%
化学物質	適切な使用及び管理
自社の商品・サービスの提案促進	環境負荷の削減のための弊社規格の交換ダイセットの提案促進

◆CO2排出量の削減【電気使用量・ガソリン・灯油】

- ・エネマネシステムを活用したピーク電力の管理（特に8月、2月を意識し下げる工夫をする）
- ・使用していない場所の電気をこまめに消す
- ・エアコン使用基準の見直し（特に梅雨時期の温度対策）
- ・エアーガンのエアリークチェック（6月に実施予定）
- ・ストーブのスポット使用
- ・ガソリンの燃費チェックとエコドライブの徹底

◆廃棄物削減【ゴミの排出量・ダンボール再利用・上質紙再利用】

- ・ごみの排出量の集計と回覧
- ・廃プラスチックの削減の工夫
- ・エコシールの活用と再利用率35%に向けた呼びかけ
- ・上質紙の分別と再利用の徹底
- ・印刷ミスを減らすための対策と呼びかけ
- ・データ管理による紙の使用の削減

◆水資源

- ・水道メーターによる使用量の確認
- ・成形機チラーの有効活用
- ・節水の呼びかけ

◆化学物質

- ・安全な管理と使用量の調査
- ・購入表の作成と運用方法の決定

◆自社の商品・サービスの提案促進

- ・交換ダイセットの提案促進と集計
- ・環境に配慮した自社製品開発と販売

◆防災

- ・救命講習(AED)
- ・消火器訓練の実施
- ・社内の危険箇所の確認と対策

適合環境等法令	該当設備	順守状況
騒音規制法	射出成形機 3台	届出
振動規制法	射出成形機 3台	届出
廃棄物処理法	廃プラスチック 廃金属 廃油	委託契約
消防法（少量危険物）	放電加工機（加工液） 第4類2石	少量危険物貯蔵掲示
フロン排出抑制法	業務用エアコン11台	3ヶ月ごとに簡易点検

該当される関連法規において確認した結果、違反事項はありませんでした。
また、過去3年間での訴訟、行政処分、関係当局等の違反はございません。

◆電気の使用について**【良かったこと】**

こまめな節電活動がしっかりできていた。昼休みの消灯は以前から持続して実施しており地道に活動できている感じている。工作機械の待機電力削減のために、機械は使用する計画のもとに電源は入れて作業をしており、作業の効率化もできていると考えられる。

【課題、改善点】

仕事の受注の増減によって電気使用量の波があった。昨年同様、コロナ禍でマスク着用での生活は夏場熱中症の危険があるため、室内温度を下げる必要があった。また、冬場も換気をしており、空調の効率は非常に悪かった。断熱効率を上げる取り組み（ビニールカーテン、ブラインド、二重サッシなど）は今期実施できていないものもあり次期には計画を立てて実施してほしい。

◆廃棄物削減について**【良かったこと】**

昨年度は加工の安全を見て余肉を多めに設定して材料を取り寄せしている課題があった。今期は切削加工で出る切りくずを減らすために、購入する材料の大きさを使用する必要最小限の大きさまで小さくした。これにより廃棄物の削減ができたことに加えて、材料購入費も下がった。無駄を省くことで経費削減にもつながった。

【課題、改善点】

廃棄物の多くはプラスチックごみである。プラスチックごみを分析すると、製品成形時に発生するスプールランナ、材料置換の際にスクリュウ内にある材料を輩出するパージ、お客様から支給していただいた成形材料の弊社での廃棄に分けられる。まずはお客様から支給していただいた材料も弊社で廃棄するのではなく極力お客様に返却するように声掛けをしていく。弊社で購入している成形材料のスプールランナは再生利用や再使用ができないか活用方法を検討していく。

◆水道使用量について**【良かったこと】**

水道の仕様については普段の生活でもかなり気を付けるようになっており、無駄な仕様はほとんど見られなかった。機械の冷却水も効率的に使用できていたと考えている。

総括

コロナ禍で冷暖房の効率が下がる中、社員の工夫で電気使用量は抑えられていたと感じている。最も電気を使用するのは、冬の寒い時期、成形機の過熱と空調を同時刻に行った際となっている。今期はみな気を付けて時間をずらして稼働時間を決めるなど工夫を重ねていた。昨年からはじめたミスメモでは社員がミスしたものを書き込み、改善の話し合いを重ねており、業務の効率化とそれに伴う電気使用量の削減にもつながっていると考えている。

防災関連ではAEDの訓練を実施したいと考えている。会社の近隣で非常にも使用できるよう必要に応じてAEDの導入も検討していきたい。